

結果の要約

1 職業

北海道の15歳以上就業者数(2,604,271人)を職業大分類別にみると、「生産工程・労務作業」が655,082人(15歳以上就業者数の25.2%)と最も多く、次いで「事務従事者」が457,257人(同17.6%)、「販売従事者」が376,846人(同14.5%)などとなっている。平成12年と比べると、「サービス職業従事者」が26,351人(10.3%)増となっている。一方、「管理的職業従事者」が17,281人(20.6%)減、「運輸・通信従事者」が13,089人(10.6%)減などとなっている。

職業4部門別割合は、「事務・技術・管理関係職業」が32.9%と最も高く、次いで「生産・運輸関係職業」が29.4%、「販売・サービス関係職業」が28.5%、「農林漁業関係職業」が7.4%となっている。平成12年と比べると、「販売・サービス関係職業」が1.2ポイント上昇しているのに対し、「生産・運輸関係職業」、「事務・技術・管理関係職業」、「農林漁業関係職業」がそれぞれ1.2ポイント、0.6ポイント、0.2ポイント低下している。

「事務・技術・管理関係職業」 = 「専門的・技術的職業従事者」 + 「管理的職業従事者」 + 「事務従事者」
「生産・運輸関係職業」 = 「運輸・通信従事者」 + 「生産工程・労務作業」
「販売・サービス関係職業」 = 「販売従事者」 + 「サービス職業従事者」 + 「保安職業従事者」
「農林漁業関係職業」 = 「農林漁業作業」

2 就業時間

15歳以上就業者の平均週間就業時間は42.8時間で、職業大分類別にみると「農林漁業作業」が50.6時間と最も長く、次いで「運輸・通信従事者」が50.0時間、「保安職業従事者」が45.6時間などとなっている。平成12年と比べると、「保安職業従事者」及び「農林漁業作業」が0.9時間増となっている。一方、「販売従事者」及び「サービス職業従事者」が1.9時間減などとなっている。

3 夫婦の労働力状態、職業

夫婦の労働力状態をみると、夫と妻ともに就業者である夫婦が548,663組(夫婦数1,378,065組の39.8%)と最も多く、次いで夫が就業者で妻が就業者以外である夫婦が456,061組(同33.1%)などとなっている。また、夫と妻ともに就業者である夫婦の職業をみると、夫と妻ともに「農林漁業作業」である夫婦が56,683組(夫と妻ともに就業者である夫婦数の10.3%)と最も多く、次いで夫と妻ともに「生産工程・労務作業」である夫婦が52,792組(同9.6%)などとなっている。

4 従業・通学時の世帯の状況

従業・通学時の世帯の状況をみると、「通勤・通学者のみの世帯」は763,592世帯(住宅に住む一般世帯2,335,185世帯の32.7%)となっている。一方、通勤・通学者以外の世帯員がいる世帯は1,571,593世帯(同67.3%)で、このうち通勤・通学者以外の世帯員が65歳以上の「高齢者のみ」の世帯が535,321世帯(同22.9%)、「女性のみ」の世帯が387,375世帯(同16.6%)、「幼児と女性のみ」の世帯が120,741世帯(同5.2%)となっている。

図1 北海道の職業（大分類）別就業者数（平成12年，17年）

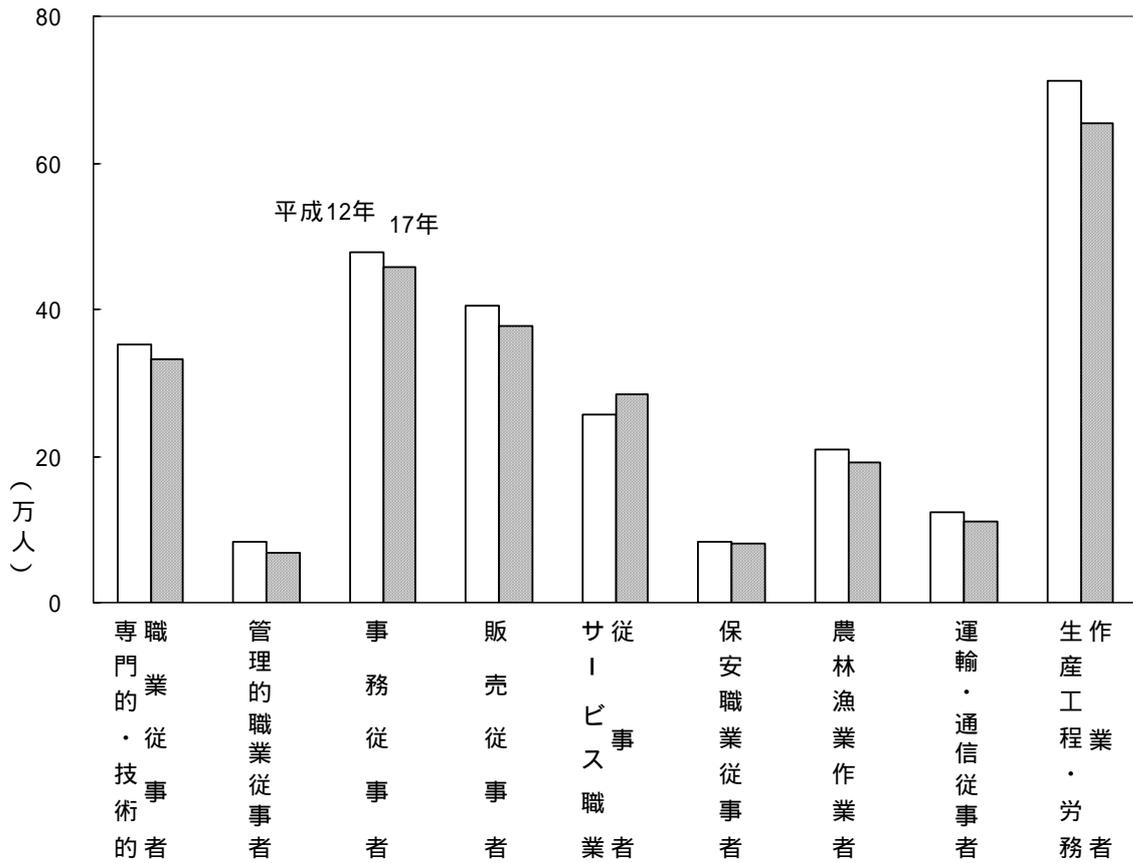


図2 北海道の職業（4部門）別割合の推移（昭和55年～平成17年）

